

女性協だより

「平成30年7月豪雨」特集号

「平成30年7月豪雨」災害によせて

あいさつ



平 梨香
会長
JA広島県女性組織
協議会の会員の皆さんに
は、日頃より女性組織
活動にご支援ご協力を
いただき、心より感謝
申しあげます。



崩落した生活道路の橋

豪雨災害による 被害の概要

ここに記して感謝
の誠を表したいと存
じます。

義援金の配分方法

につきましては、JA
広島県女性組織協議
会において慎重審議
を重ねた結果、被
害の範囲が県内広域で

発生していることや
多岐に及んでいるこ
と、そしてアンケート

調査の結果を参考に、先ずは、日々の生活拠点で
ある住家に焦点をあて、被害が大きい方へ手厚く

義援金を贈ることとしました。そのため、本来で

あれば被災されたすべての部員の皆さんに配分すべ

きところではあります、断腸の思いで配分先を

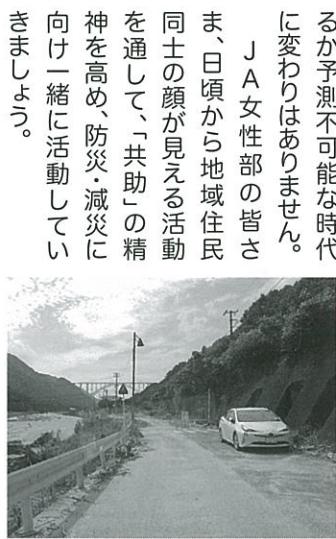
限定させていただきましたことを、何卒ご理解い

ただきますようお願いいたします。

また、この度のアンケート調査では、生活の再建、
地域の復興等、さまざまな困難な状況の中で、ご協
力いただきましたこと、厚く御礼申しあげます。
平成も最後の年を迎えましたが、引き続き、地球温
暖化が一因と考えられる災害は、何時何處で発生す
るか予測不可能な時代
に変わりはありません。

ここに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしま
すとともに、被災されたお一人おひとりが一日も早く、
平穏な暮らしに戻りますよう心より念じて止みません。
この度の災害では、発生当初から県内各地でJA
女性部が炊き出しや、JA女性部間で連携してタオル
などの物資を送るといった支援活動に自発的に取り
組むなど、部員同士が協同の精神で難局を乗り越え
る姿に、今も感激に耐えず、心強く感じております。
このような状況を受け、JA広島県女性組織協議
会でも、「被災された部員の方々の何かのお役に立ち
たい」と思い、義援金活動に独自に取り組むこととし
ました。

中には、自らが被災されたにもかかわらず、積極的
にご協力いただくななど、各地で活発な活動を繰り広
げていただき、その結果、数多くの部員の皆様より心
温まる支援をお預かりすることができました。
また、早くから全国各地のJA女性部より心温ま
る励ましの言葉や物資、義援金を頂戴し、全国の女性
部員との絆の強さを改めて感じました。

JR山陽本線の沿線(右上)が崩れ
寸断された道路

土砂が流れ込んだ家屋

JA女性部の皆さ
ま、日頃から地域住民
同士の顔が見える活動
を通して、「共助」の精
神を高め、防災・減災に
向け一緒に活動してい
きましょう。

「平成30年7月豪雨」災害で広
島県は、死者120人（災害関
連死11人を含む）、行方不明者
5人、住宅被害15,828棟、
そのほかにも土砂・浸水により
電気・水道や交通機関などに大
きな被害がもたらされました。
(平成31年1月末日現在)

また、農業関係においても、
1200haを超える田、畑、樹
園地などで12億円を超える農
作物被害が発生し、農業用施
設や農地などを含めると
491億円を超える被害額と
なりました。特に被害面積が
大きい田においては、土砂流入
により、刈取りに加え来年の
作付にも影響がでるなど、被
害が中長期に及ぶことが懸念
されます。(第28回JA広島県
大会資料より)

「平成30年7月豪雨」災害時のJA女性部活動

J A三次女性部

J A三次和田支部 徳岡 澄子

「この地域は大丈夫だろう……」という安易な安心感のなか、尋常ではない雨が降り続き、一夜明けると自宅廻りの崖崩れ、ため池の決壊、土砂・瓦礫の流出、床下浸水、断水と予想もしなかった災害が発生した。

対策本部が設置され、JA三次助けあい組織「たんぽぽの会」とJA三次女性部和田支部も給食班として出動し、初めての「炊き出し」を体験した。

体験を通じて今改めて思うことは、「地域を守る」「地域で助け合いが出来る」「地域で繋がりがもてる」こと。これが出来る組織でありたい!「地域防災力の向上に努めたい」。

で開催された「消費者のつどい2018」に於いて、JA三原女性部の松本治美部長が「災害時におけるJA女性部の活動」と題して発表を行い、女性組織の助け合いの力、絆の力を広く訴えた。

組織を越えた支援活動

「平成30年7月豪雨」で被災した地域を支援しようと、組織を越えて助け合いの輪が広がった。

J A尾道市女性部は、交流のあるJA三原女性部に対し、タオル1200枚と飲料水5箱を提供し、被災地域の支部長を通じ各地域へ配布した。

また、県内JA女性組織およびJA広島県女性組織協議会において義援金活動を実施し、被災者がいち早く普段の生活を取り戻せるよう支援に取り組んだ。

「豪雨禍乗り越える」「できるから」「頑張りましょう」

女性部 奮闘

沼田川の氾濫で広範囲に浸水被害があつた三原市本郷地域の支援を7月9日から開始。カレー・ライスを配りながら被害の状況や必要な物を聞き取り、軍手・タオル・マスク・歯ブラシ等支援物資を確保し、翌日には届けた。

また、行政の支援が行き届いていない老人集会所への配食も継続的に行つた。食材は近所からの差し入れや、以前から交流のある東北・九州から届いた野菜や果物で賄つた。これらの活動を、平成30年11月28日広島市内

「平成30年7月豪雨」災害に遭遇して JA安芸 小屋浦支部女性部員

あの日から、もう六か月が来ます。小屋浦地区で十六名の方が尊い命を亡くされました。

内、四名の方は私の近所の方で普段から懇意にしていただいているので、心が痛みます。私も五分間という時間で命の明暗を分けました。二階への避難が遅れていたら主人ともども土砂に巻き込まれていたと思います。普段からの危機感の乏しかったことをしつかり反省させられました。あの日午後七時四十分頃です。断水と停電に始まって一階には水、土砂、石、流木等が流れ込み、一晩中濁流の中でしたが、我が家はよく耐えてくれました。早く水が引いてくれることを願つて一晩、長い夜が明け、ようやく朝過ぎに一階に降りて愕然としました。昨日までの私の家のまわりの景色は一変していました。娘夫婦の家に避難しましたが、この頃の記憶が少し欠けています。翌日から家の片付け作業に入りましたが、思い出の品々は泥の中でどこに流れてもわからぬつらい気持ちの中、無我夢中で頑張りました。娘夫婦を始め、その友人・親戚の方、ボランティアの方々、皆さんの助けの中なんとか片付き、今日に至っています。残念ながら我が家は全壊となり、解体します。楽しい時もつらい時も子供たちと過ごした我が家ですが、自然の力の恐ろしさにはあらがうことは出来ません。心の中で説びています。でも私たちよりももっとつらい思いをされている方は沢山おられます。小屋浦地区の方全てがこの度は被災されています。心の中で説びています。でも私たちよしそつ、一歩ずつですがどうか日々がつないでいたらと思っています。また、温かい声をかけてくださいました知人、友人の方、県内外からのボランティアの方、ご支援いただきました皆さんに心より感謝いたしております。本当にありがとうございました。（原文のまま）

平成30年7月17日付 日本農業新聞



炊き出しに必要な物品を準備する女性部員

あの日から、もう六か月が来ます。小屋浦地区で十六名の方が尊い命を亡くされました。内、四名の方は私の近所の方で普段から懇意にしていただいているので、心が痛みます。私も五分間という時間で命の明暗を分けました。二階への避難が遅れていたら主人ともども土砂に巻き込まれていたと思います。普段からの危機感の乏しかったことをしつかり反省させられました。あの日午後七時四十分頃です。断水と停電に始まって一階には水、土砂、石、流木等が流れ込み、一晩中濁流の中でしたが、我が家はよく耐えてくれました。早く水が引いてくれることを願つて一晩、長い夜が明け、ようやく朝過ぎに一階に降りて愕然としました。昨日までの私の家のまわりの景色は一変していました。娘夫婦の家に避難しましたが、この頃の記憶が少し欠けています。翌日から家の片付け作業に入りましたが、思い出の品々は泥の中でどこに流れてもわからぬつらい気持ちの中、無我夢中で頑張りました。娘夫婦を始め、その友人・親戚の方、ボランティアの方々、皆さんの助けの中なんとか片付き、今日に至っています。残念ながら我が家は全壊となり、解体します。楽しい時もつらい時も子供たちと過ごした我が家ですが、自然の力の恐ろしさにはあらがうことは出来ません。心の中で説びています。でも私たちよりもっとつらい思いをされている方は沢山おられます。心の中で説びています。でも私たちよしそつ、一歩ずつですがどうか日々がつないでいたらと思っています。また、温かい声をかけてくださいました知人、友人の方、県内外からのボランティアの方、ご支援いただきました皆さんに心より感謝いたしております。本当にありがとうございました。（原文のまま）

J A広島県女性組織協議会の活動経過

- ① 7/20JA女性部長会議において、被災されたJAグループ広島の女性部員の生活再建支援のため、募金活動を実施することが決定され、「JA広島県女性組織協議会平成30年7月豪雨災害に係る義援金実施要領」を制定した。
- ② 平成30年7月24日～平成30年9月28日までを実施期間とする義援金活動を実施した。
- ③ 女性部員の被災状況確認と、寄せられた義援金配分の指標にするため、「豪雨災害にかかるアンケート」を実施した。
- ④ アンケート結果を取りまとめ、11/14JA女性部長会議において義援金の配分方法・配分金額を協議した。
- ⑤ 被害報告のあった県内9JA女性組織へ義援金を配分した。
- ⑥ JA女性部から被災された女性部員へ義援金をお渡しした。

女性部員の被災状況

人に関する被害	自宅(住家)に関する被害				生活用自家用車に関する被害 廃車	合計
	全壊	大規模半壊	半壊	その他		
死亡	47	70	60	218	147	548



床上浸水の被害を受けたJA職員の自宅1階



広島県女性協からJA安芸女性部に義援金が手渡された



広島県女性協からJA三原女性部に義援金が手渡された

西日本豪雨
「ふれあい沼田西」
JA三原管内の沼田西
地域で女性部・はなみすきの会場で憩いの場づくりのため設立した「ふれあい沼田西」は、西日本豪雨の影響で休止していた活動を11月から本格的に再開した。メンバーの中にも被災者が含まれている。また、この豪雨の影響で、同地域の一部では災害時の本郷町と同様に河川の氾濫により、家屋や車の浸水や土砂崩れなど多くの被害を受けた。メンバーは、大変な声と

平成30年11月27日付
日本農業新聞



崩落した生活道路の橋



床上浸水の被害を受け運び出された家財道具一式

床上浸水の被害を受けたJA職員の自宅1階

(平成31年1月末現在)

団体名
広島県内13JA女性組織
J A岩手県女性組織協議会
J Aみやぎ女性組織協議会
J A福島女性部協議会
J A長野県女性協議会
J A筑前あさくら女性部
J A熊本県女性組織協議会
J A鹿児島県女性組織協議会

J A広島県女性組織協議会に、県内13JA女性組織および県外7JA女性組織（左表）から義援金・見舞金が届けられ、総額6,109,775円となつた。義援金は被災された女性部員への義援金や支援活動に使用させていただきます。

義援金報



(1件につき)

人に関する被害	自宅(住家)に関する被害				生活用自家用車に関する被害
	死亡	全壊	大規模半壊	半壊	
	50,000円	50,000円	10,000円	10,000円	3,000円
					2,500円

お見舞金を受け取った女性部員からは、「自分より被害の大きい被災者へ渡してもらつて良かったのに有難う。」「寝具が全て水に浸かったので、この見舞金で正月に帰省する息子の毛布を買ってやります。」「床下浸水で庭の草木もはかなく流されました。ただ一本だけ濁流にも土砂にもめげず開花した皇帝ダリヤがありました。本年の干支に因んで数多くの子孫を残そうと計画しています。お見舞、応援、励ましのお言葉有難うございました。」など、たくさんの方から感謝の言葉をいただきました。

お見舞金を受け取った女性部員からは、「自分より被害の大きい被災者へ渡してもらつて良かったのに有難う。」「寝具が全て水に浸かったので、この見舞金で正月に帰省する息子の毛布を買ってやります。」「床下浸水で庭の草木もはかなく流されました。ただ一本だけ濁流にも土砂にもめげず開花した皇帝ダリヤがありました。本年の干支に因んで数多くの子孫を残そうと計画しています。お見舞、応援、励ましのお言葉有難うございました。」など、たくさんの方から感謝の言葉をいただきました。

被災された女性部員から

福岡県のJA筑前あさくら女性部とJA広島県女性組織協議会は、平成31年1月16日意見交換会を開いた。筑前あさくら女性部が2017年7月の九州北部豪雨で経験した復旧・復興の取り組みや18年7月の西日本豪雨の被災地への思いを伝えたいと開催を提案。復旧・復興に向けた女性部の取り組みなどを共有し、災害対策などの活動に向けて意見を交わした。筑前あさくら女性部から広島県女性協に義援金と千羽鶴が手渡された。

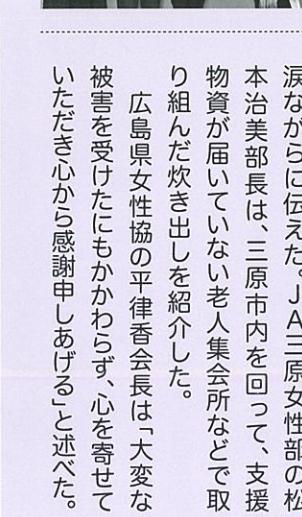
福岡県のJA筑前あさくら女性部とJA広島県女性組織協議会は、平成31年1月16日意見交換会を開いた。筑前あさくら女性部が2017年7月の九州北部豪雨で経験した復旧・復興の取り組みや18年7月の西日本豪雨の被災地への思いを伝えたいと開催を提案。復旧・復興に向けた女性部の取り組みなどを共有し、災害対策などの活動に向けて意見を交わした。筑前あさくら女性部から広島県女性協に義援金と千羽鶴が手渡された。

意見交換では、筑前あさくら女性部の色タオルを活用した避難確認や電話などの声掛け、日頃の災害に対する備えの大切さを説いた。

広島県女性協も西日本豪雨災害で女性部員6名が犠牲になるなど、県内の被害や被災地への支援活動を紹介。「生まれ育った町が見たこともない姿になり、涙ながらに伝えた。JA三原女性部の松本治美部長は、三原市内を回って、支援物資が届いていない老人集会所などで取り組んだ炊き出しを紹介した。

広島県女性協の平律香会長は「大変な被害を受けたにもかかわらず、心を寄せていただき心から感謝申しあげる」と述べた。

福岡JA筑前あさくら女性部 ～広島県女性協と 復興へ女性部交流～



「平成30年7月豪雨」災害にかかるアンケート結果

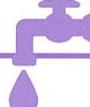
今後の女性組織協議会の生活支援活動の参考とするため、女性部員にアンケートを実施しました。その結果、今回の豪雨災害における「暮らしでの困りごと、気づき、工夫されたこと等」についての声が寄せられました。いただいた声は今後の防災活動の参考にさせていただきます。

困ったこと



- ・物資が届かず避難所生活を送った
- ・行政が指定する避難先が家から遠すぎた
- ・お年寄りに避難を呼びかけたが、なかなか避難に応じてもらえたなかった
- ・避難先に車椅子が無かったので困った
- ・避難先の毛布が足りていなかった
- ・避難先で小さな子どもを持つ親に対しての配慮に欠ける発言があった
- ・電化住宅なので4日間の停電は非常に困った
- ・4日間の停電で冷蔵庫の中身を全部捨てた
- ・停電で連絡が取りづらく、また、何の情報も入らなかった
- ・床上浸水で、新聞紙とタオルを敷き詰め交換して水分をふき取った
- ・水がすぐ止まると思わなかった
- ・近くのお店が閉まり、道路事情も悪く移動が難しかった
- ・排水溝が土砂で埋まり、ポンプで排水した
- ・ガスや冷蔵庫を注文したが、設置まで何日もかかった
- ・家の裏側の設置していたボイラーや室外機などが使用不可となり、10日位は家で入浴できなかった
- ・救助に向かったものの、水かさが急に増した
- ・自宅に被害がなくても周辺の道路が未だ整備されておらず、不自由な生活が続いた
- ・権災証明書の申請という発想がなく、発行を受けていなかった

水に関する困りごと



- ・水の確保に苦労した
- ・猛暑の中での水不足、お風呂や洗濯、トイレが困った
- ・井戸水で生活用炊事は確保できたが、飲料水には苦労した
- ・井戸水があったが、停電のためポンプが動かせず使用できなかった
- ・避難先は食料はあったが、水が無かった
- ・水をもらいに行きたくても重たくて運べず苦労した。また、そういう方への対応ができていない現状があることがわかつた
- ・20リットルのポリタンクがあつても、持ち運びが容易ではなかった

特集号の発行が無いことを願っています。特集号の発行があつては、さまざまなものに交錯する中で、執筆をお願いしました。発行に携わっていた多くの方に、心より感謝申しますとともに、このような特集号の発行が無いことを願っています。

「平成30年7月豪雨」災害が発生して半年になりますが、私たちは、「女性部活動や女性部の声を後世に引き継ぎたい」「いつも傍に活動しよう」と等々の思いを伝えたいことから、今回の特集号の発行に至りました。

編集後記

気づき・知恵袋等

- ・水洗トイレはタンクにバケツ2杯分の水が必要。1杯で充分流れるので、普段から節水に心がける
- ・節水のためトイレに紙は流さない
- ・水不足の中、食器にはラップをひき、コップは紙コップで対応した
- ・家具を固定する「つっぱり棒」が役立った(浸水による家具の浮かびを抑え固定できた。)地震だけでなく水害でも有効
- ・朝から水をバケツに入れ、日に当ててお風呂に利用した
- ・ペットボトルに水を入れ、太陽で温めて身体を洗い流した
- ・断水になっても井戸水や川の水を利用できる地域は大いに助かった。また、水をくみ上げるポンプがあるところは作業が楽だった
- ・カセットコンロは非常用として必要
- ・ほどんと水を使わなくてよい「ムスイ鍋」はかなり活用できた
- ・停電時は冷蔵庫を開けない
- ・2層式の洗濯機は節水できるので、あると助かった
- ・風呂水を溜めておく
- ・日頃から水道水をペットボトルに入れてストックしておく習慣は大変役立った
- ・水は生きていく中で、一番必要を感じた
- ・水の備蓄の必要性を感じた
- ・いつもと違いを感じたらすぐ避難する
- ・必要なものをリュックサックにまとめて「非常袋」を用意しておくことの必要性を感じた
- ・防災に関して、もう一度見つめ直し普段からの準備や、自分の命や家族の命を守る行動を取る様に心がける
- ・自身に被害がなくても、周囲に被害があったことを聞くと精神的にとても辛い
- ・豪雨災害の後、大雨があるたびにまた土砂崩れ等の災害に遭うのではと不安な日々を送っている
- ・女性部からいち早くの物資(タオル、手袋等)を支援してもらえて有り難かった
- ・自衛隊(他県からの給水・入浴車等)の方たちにとても感謝している



他のJA女性部より寄せられた支援物品のタオル



支援活動を行うJA三原の松本女性部長